



学校だより

(5月号) 令和6年4月30日発行

<https://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子
- 《今月の生活目標》 時間を守ろう

自然豊かな学校 ～子どもたちの学びの伴走者として～

校長 岡田 健彦

子どもたちの笑顔はいいものです。新年度が始まり、早1か月が過ぎました。元気に登校する子どもたちの表情やその姿は明朗活発です。「おはようございます!」と元気に私の顔を見てあいさつをしてくれる子がたくさんいます。地域の防犯ボランティアの方々は、交差点ごとに子どもたちの見守りをしてくださっており、朝の手厚い安全登校支援に心から感謝申し上げます。また、温かいお声掛けに身が引き締まる思いです。子どもたちのためにしっかりと教育活動の充実に取り組んでまいります。

さて、先日、4年生の子どもたちはサクラソウ公園内の自生地に行き、自然観察を行いました。当日は、田島ヶ原サクラソウ自生地を守る会のボランティアの方々の説明を聞きながら、熱心にメモをとり、疑問点を質問するなどし、興味津々に観察していました。サクラソウの色の違いや花の数の違いなど、変異についても知ることができました。また、サクラソウの周りに生えている草は、サクラソウを夏の強い日差しから守る役割を果たしていることなど、私自身も知らなかったことをたくさん学ぶことができました。今は数が激減しているカントウタンポポや九州地方に自生している白いタンポポを観察することもできました。帰校後に校庭にカントウタンポポが生えていることに気が付き、改めて本校の自然の豊かさを認識しました。本校で育てている株分けした田島ヶ原のサクラソウも大切に育てていこうという決意をもつことができました。



サクラソウの観察
(4年生)

今回、本校の探究的な学びの最初の体験活動に同行し、私たち教員や子どもたちを支える大人は、子ども一人一人の学びを最大限に引き出す役割が求められ、子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を発揮していかなければならないと実感いたしました。つまり、子どもの「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、私たち教師が問いを立て実践を積み重ね、振り返り、次につなげていく探究的な学びを自らデザインしていくことが必要であります。また、そのような主体的に学び続ける教師の姿を見せていくことが、子どもたちにとっての重要なロールモデルとなるとも言われております。だからこそ私自身、子どもたちと一緒にしっかりと学んでまいりたいと思います。よりよい探究的な学びができるよう、年間を通じて、教員研修を行い、「自ら問いをもち、自分の考えを基に、主体的・協働的に探究する新開っ子」を育成してまいります。たくさんのボランティアの方々の御支援をいただきながら地域のすばらしさを知ることができた1日でした。

追伸 先日は、保護者の皆様や地域の皆様にクリーン活動の御協力を賜り、ありがとうございました。お陰様で、参加者一同、子どもたちと一緒に汗を流しながら、取り組むことができました。きれいになった学校に清々しさを感じることができました。今後とも、本校の自然豊かな教育環境の維持にお力添えいただけますと幸いに存じます。

最近、気温が急激に高くなる日があります。この時期は、まだ子どもたちの体が気温の変化に適応できておらず、熱中症リスクが高くなっています。学校でも、水分補給や日差しへの対応、運動量等に配慮してまいります。各御家庭におかれましても、子どもたちへの御指導をよろしくお願いいたします。

